

仕事始め式

新年、あけましておめでとうございます。職員のみなさんの元気な姿を見ることができ、とても嬉しく思います。

昨年を振り返ると、台風15号や19号の発生により、日本列島各地が大きな被害に見舞われたほか、西尾市内でも豚コレラや痛ましい交通事故が発生するなど、大変な一年でした。

その一方で、元号が平成から令和に代わり、社会が広く祝賀ムードに包まれる中で開催されたラグビーワールドカップでは、日本代表が目覚ましい活躍を見せ、国内全体が大いに盛り上がりました。

そして、今年最大のトピックスは、何と言っても東京オリンピック。日本代表のアスリートの活躍により、再び国内全体が熱狂の渦に包まれることが予想されます。その翌年は、西尾市が合併10周年を迎える大きな節目の年となります。

まちづくりにおいて「ムード」というものは重要な要素の一つであり、昨年から続く明るいムードが途絶えることなく合併10周年を迎えられるよう、チーム西尾市としてワンチームとなって市政運営に邁進してまいりたいと思います。

さて、今年度の西尾市政のスローガンは「多様性が輝く共生のまちづくり」ですが、「共生」と並び、今後のまちづくりにおける重要な考え方としてあげたいのが「共創」という言葉です。官民連携して新たなまちの魅力や地域の価値を創造していくということです。

この共創のまちづくりを進めていく上で、みなさんの心にしっかり留めておいてもらいたいことがあります。それは、市民や民間事業者の熱意や知恵を積極的にまちづくりに反映させていってほしいということです。

私たちが行政運営をしていく上で、中立や公平という視点は欠かしてはなりません。しかし、杓子定規に考え過ぎると、前例がないとか、批判が出るかもしれないという

理由で、新しい芽をどんどん摘み取っていってしまうことになりかねません。中立や公平の視点は確かに大事ですが、それを理由に行政自らまちの発展につながる可能性を潰すのではなく、熱意のあるまちづくりの当事者を増やすことで、サービスを受ける側の市民、サービスを提供する側の市民あるいは民間事業者、行政の三者がWin-Win-Winとなる手法を考えることが重要です。

概念的なことだけ言ってもイメージが湧きにくいと思いますので、一つ具体例を紹介します。今年度のワクワク西尾創生コンテストにおいて、最優秀提案となったのが、読書通帳の導入です。読書通帳を導入することで、読んだ本の履歴が見える化され、それが読書に対する興味を掻き立て、読書の促進に繋がることが期待されるため、とても良い提案でした。ただ、現実的で説得力のある提案ではあるものの、突き抜けたアイデアとまではいきませんでした。これには続きがあり、西尾信用金庫から多大なるご支援をいただき、市の負担が生じることなく、市内全小中学生に読書通帳を配布できる運びとなりました。

中心となって企画を考えてくれた職員の創意工夫と熱意、そして西尾信用金庫のご理解とご協力により、三社がWin-Win-Winとなる事業が実施できる予定です。

もちろん、日々の行政運営に当たっては、ルーティンワークを間違いなく確実に行うことも重要です。それを土台として上で、柔軟な発想と行動力をもって市民や民間事業者の熱意や知恵を反映させていく、共創のまちづくりに取り組むことで、他の自治体よりも一歩先んじてワクワクできる西尾市を創っていきましょう。

それでは、今年も一年よろしく申し上げます。